# 「蚊とりん」取扱説明書 設置方法

本品は、ヤブ蚊を容器内でヤブ蚊のボウフラを捕獲及び駆除することで熱帯感染症（デング熱、チクングニア熱、ジカ熱など）を媒介する蚊の個体数を削減する目的で考案された商品です。
薬剤による、健康被害や生態系への悪影響もなく、雨水や池の水などの自然水だけで安心してご使用いただけます。

## 「蚊とりん」の構造

蚊のボウフラ捕獲・駆除器 蚊とりん

**①雨だれ受け**
この部分から雨水が入るように設置してください。

**②メスの蚊が卵を生む 産卵槽**
水ぎわ壁面に卵を産み、数日で孵化しボウフラとなり成育槽に落下します。

**⑤成虫となっても安心の 死滅槽**
成虫は出口を求めて死滅槽へ移りますが容器から出ることはできず3～4日後に死滅します。

**③容器外へ出ることを防ぐ フロート弁**

**④成育槽**
ボウフラは満水時は成虫になれずに死滅、水位が下がった状態で成虫となっても死滅槽へ移ります。

## ① 「蚊とりん」本体に雨水を給水する

### 「蚊とりん」に雨水を入れる

右記の給水位置まで雨水を入れてください。
黒いフタ部分をとって給水する場合は、給水後にフタ部分をかぶせる際に水があふれ出る場合があります。

### 雨水がない場合の対処法

雨水がない場合は、水道水に含まれる残留塩素量（カルキ=消毒薬）を除去してからご使用ください。

#### 塩素除去法

◎水道水を煮沸し、さましてからご使用ください。
◎水道水をバケツや1.5リットルのペットボトル（キャップはしない）に入れ、直射日光に当たる場所へ1日～2日汲み置きして放置しておくと、カルキが蒸発しご使用いただけます。
※残留塩素量は、一般的に冬場よりも夏場の方が多く、地域により多少量が異なりますが2日で概ね除去できます。
◎微量の塩素が残る場合がありますが、家庭用浄水器の水も使用可能です。
※「蚊とりん」に給水後、徐々に残留塩素は抜けますが産卵の効果確認まで時間がかかる場合がございます。
（注）アルカリ性の塩素を中和させ除去する熱帯魚水槽用塩素中和剤、お酢、緑茶等は分量が難しいためおすすめいたしません。

## ② 「蚊とりん」を適所に設置する

ヤブ蚊の潜んでいそうな木陰等に設置してください。（直射日光が当たる場所には設置しないでください。）

○ 地表から30cm以内、雨だれが落ちるヤブの地面
○ 風や直射日光が当たらないヤブの葉物植物の陰
○ 近くに池などの産卵に適した水たまりがない場所
○ 親蚊が2～3日休むのに適す静かな環境

× 大量の雨水やゴミなどの異物が流れ込む場所
× コンクリートで囲まれ直射日光が当たる暑い環境
× 害虫駆除剤・殺虫剤・除草剤などが散布された場所
× お子様が興味本位に開けてしまうような目立つ場所

※設置して数週間後に容器内に緑色の藻の発生（付着）が見られる場合、日光が当たっている可能性があり、藻がフロート弁の動作を阻害することもあるため、常時日陰となる場所に移動させてください。
※転倒が予測される場合には、「蚊とりん」本体にあるフック穴を利用してヒモで固定してください。

発生シーズンでは設置して約2週間でボウフラが発生し始めます。3週間しても発生が確認できない場合は、設置場所を変更してください。

## ③ メンテナンス方法・ご使用にあたって

通常は雨天時に雨水が自動給水されますが、雨が降らず水が極端に減ったときは必要に応じて自然水の補給を行ってください。
その際は、フタを取らずに本体上部の「雨だれ受け」から給水してください。

※1ヵ月に1～2回、転倒していないこと、通路口がゴミなどの異物によって詰まっていないことを確認し、通路口がゴミなどで詰まっていた場合は、市販のプラスチック製スポイトなどで取り除いてください。
※短期間に大量の産卵がなされた場合、容器内のエサ不足によってボウフラが死滅することがあります。また、水温が過度に上昇した場合でもボウフラは死滅します。
※容器内に非常に小さなアリやクモなどが侵入し、死滅した成虫の死骸を捕食する場合があります。
※害虫駆除で薬剤が散布された場合には、よく水洗いしてから再設置してください。
※本品の捕獲機能維持のため、産卵槽への進入口付近にクモが巣を張っていた場合には取り除いてください。
※小動物が容器内で死滅しており、親蚊が産卵しない腐敗水質となっていた場合、洗浄・給水して再設置してください。
※本品の材質は耐候性・耐衝撃性に優れたPP（ポリプロピレン）材であり、繰り返し使える耐久品ですが、経年劣化や外部応力などの複合要因によって変形や亀裂、破損することもございます。予めご了承ください。
※発生シーズン終了後は水洗いをして室内で保管してください。